

アカシア夜話 アカシアンナイト  
第5話



●東京アカシア会 創定期事情

東京アカシア会は活性化委員会をつくり、新たな会員獲得と活動の拡大を目指していますが、戦後の東京アカシア会の歩みを副会長や事務局を永らく務められた長老の山岡敏雄さん(29回、元二川東京出張所長)と平城弘通さん(29回、元自衛隊陸将補)のお二人に語っていただきました。

初期の東京アカシア会

東京のアカシア会は最初は19回まででやっていたね。僕ら(29回)にはお呼びがなかったんだね。

戦後第1回のアカシア会が開かれたのは昭和25(1950)年5月のことだった。「19回生の会」の戦後第1回目の会合が新宿ユニオンであるから行ってみたいかと、2期下で31回の千葉諭吉君(元千葉倉庫社長)が誘ってくれた。千葉君は19回の津國琢二さん(元富士重工業取締役)から誘われたんだそうだ。

昭和25(1950)年に最初の名簿が出来、翌年も名簿をつくった。ポケットにそのまま入れることができるようにと、文庫版サイズだった。活字も横組みにした。記載されているのは30回までだった。

本部は第1回卒業生の宮本鬼外さん(元宮本工業社長)の会社があった北区滝野川町におき、中央連絡所は戸田新太郎さん(6回、元日東カルシウム社長)の会社にあった。宮本さん、戸田さんとも相談役をお願いしていた。

これから毎年春1回総会を開くことになり、昭和26(1951)年5月、日本橋協和会館で総会が開かれ120人が参加した。そのとき、新たに21回から30回までの卒業生を正式に加えて、会員総数は280人になった。

それ以降の回を無視したというわけではないけど、しばらくは30回までしか入れないということでした。そして31回の賀川泰彦君(元野村証券)あたりが怒って、別にアカシア会をつくるという話が出て、じゃあ一緒にやろうという事になった。閉鎖的だったというよりは、若い人であんまり批判する人がいなかったんでしょう。

東京アカシア会の名称はその時からあったと思う。会長はいなくて、世話人というのがいたと思いますよ。

槐(えんじゅ)会

槐会というのもあったが、これは附

属出身の財界人だけでした。あのころは永野重雄さん(9回、元日本商工会議所会頭、新日本製鉄会長)とか櫻田武さん(12回、元日本経営者団体連盟会長、日清紡績社長)とかそうそうたるメンバーがそろってました。

会長制になったのは昭和43(1968)年の櫻田武さんのときから。どういう手順で決まるのかわからなかったけど、自然発生的に御年寄りが決めるんですよ。

東京アカシア会の組織化

会が組織的になったのは三好正さん(21回、元電気技術開発社長)が副会長をやった昭和44年あたりからかな。このグループがすごくしっかりしていた。名簿も作ろう、会則も作ろうということをやっていましたよ。21回の松森鐵郎さん(元新興社社長)が、そういうことをするのが上手でね。このコンビが原型をつくったようなものです。

名簿は松森さんが中心になってやってくれ、2年たってから本格的なのができた。その時に、名簿に収録した人員が一挙に増えましたよ。広島藤居平一さん(24回、元広島銘木社長)が、「君らのお陰で広島の名簿がやっとなるようになった。東京の名簿を見て、訂正ができるようになった」と感謝してきた。



山岡敏雄さん 右が平城弘通さん 2008年7月撮影

そのころにはもう30回までという原則はなく、もう全員が入っていました。春秋に懇親会をやるというのも、そのころからあったと思います。

東京アカシア会に学年幹事制をしたのは、伍堂輝雄さん(14回、元日本航空会長)が会長になった昭和45(1970)年ころからです。学年幹事をつくり、1年ずつずらしていこうということになった。

会長は伍堂さんから昭和62(1987)年に井内慶次郎さん(32回、元文部次官)に代わり、そのあと平成8(1996)年から児玉幸治さん(43回、元通産次官)、平成18(2006)年から今の川泰宣さん(50回、元宇宙航空研究開発機構)になった。

僕(山岡)が副会長や事務局をやっ

いた昭和46~56(1971~81)年ごろは金がなくね。その前からそうだったけど。いつも事務局が出していましたよ。宮本(鬼外)さんとか、戸田(新太郎)さんとかがね、いろんな小さな経費は負担していたんじゃないかと思う。

反対された広告取り

そういうことをやっていたら発展しないから、寄付を集めようじゃないかということになった。名簿で広告をとろうという話も、われわれ事務局の前からありました。

ところが櫻田さんは「そんな品のないことはできん。原則として広告とか寄付は匿名にしろ」とおっしゃる。だから、誰も出さなくてさっぱり集まらない。

しかし、櫻田さんは全然お金をだしてくれないんだ。なだたるメンバーがそろっていたんだが、お金の方は厳しかった。だから、僕の所と石井泰行さん(43回、当時賀茂鶴東京事務所、アカシア会会長、賀茂鶴酒造会長)のところを出していた。

その後も、名簿を作るときに広告をとろうという話は何度かあったんだけど、幹事会ではみんな横をむいちゃって、みんなつぶされちゃった。

東京アカシア会会費

それまでは年会費600円をとっていたが、払わないのが多いから我々の時に1000円にし、それでも足りないから特別会費、つまり終身会費をとろうと計画した。それが3000円だった。

そうしたら10年くらいはもつんじゃないかと思ったんだがね、すぐにオイルショックがおきた。だから年会費を1000円から少し上げ、終身会費も徐々にあげていった。

昭和54(1979)年は年会費2000円、終身会費納入資格者は32回までで2万円になった。いまは年会費3000円、終身会費3万円だが。

事務局もここ30年の間に賀茂鶴東京事務所、山口邦明法律事務所(山口邦明氏、49回、弁護士)、牛島総合法律事務所(牛島信氏、58回、弁護士)、そして尾籠裕之氏(56回、株式会社業務プロセス研究所)の事務所と点々としてきたが結構大変だよな。特定の人に負担が片寄らないようにうまく仕事を分け合って、東京アカシア会を発展させていってもらいたいものですね。

\*\*\*\*\*  
文責・編集：大沢郁枝(52回)  
編集：中村 英(57回)  
\*\*\*\*\*